



花
幻
堂

R-18
成人向け

壹



1600年



いつ見ても
綺麗な体を
しているなあ



えんじゅ
息が上がつて
いるぞ

はっ

気持ちいいかい？

はっ

陰間茶屋
「花幻堂」

可愛い奴だ…

これが…



うっ

かっ



は、はい…！

こう言つたほうが
早くイッてくれるでしょ



客に体を売って
お金を稼ぐ



親に売られてから
毎日同じことの
繰り返し



それでも……



はい……!

陰間である俺の仕事



ほら、自分で動きなさい



ここでの生活は

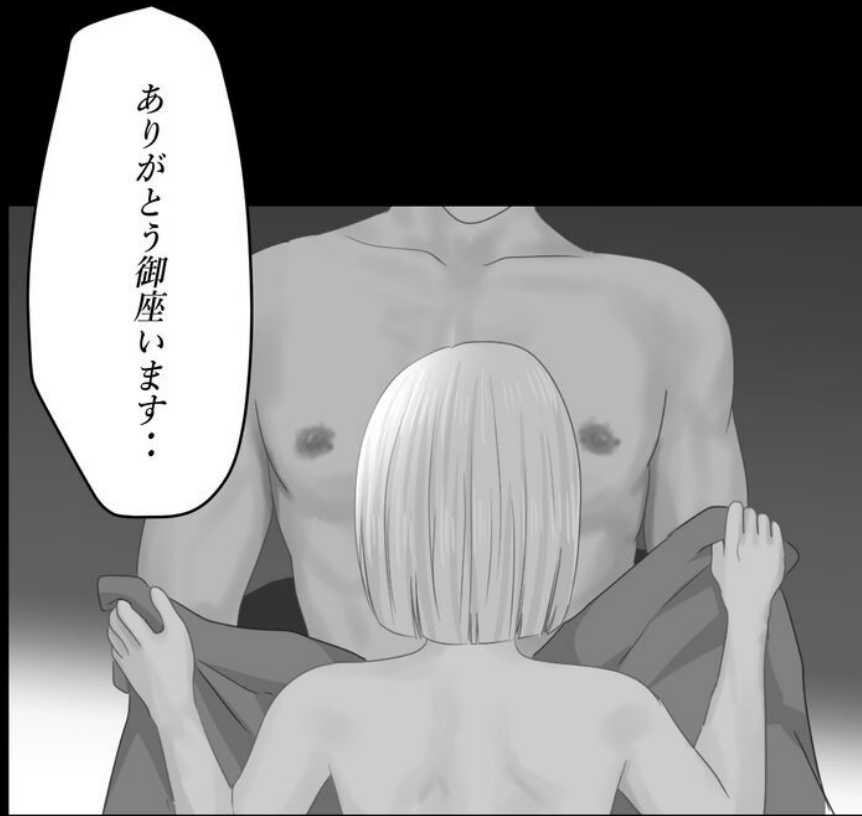
苦じゃない

今だけは



初めて出会ったが
お前は魅力的な
陰間だな

幸が薄そうで
美しい色をしている



ありがとうございます御座います：



かわいらしいなあ



遊女に負けない
技術もある…



ちゃんと
全部飲めるだろ？

ほら



苦しくても

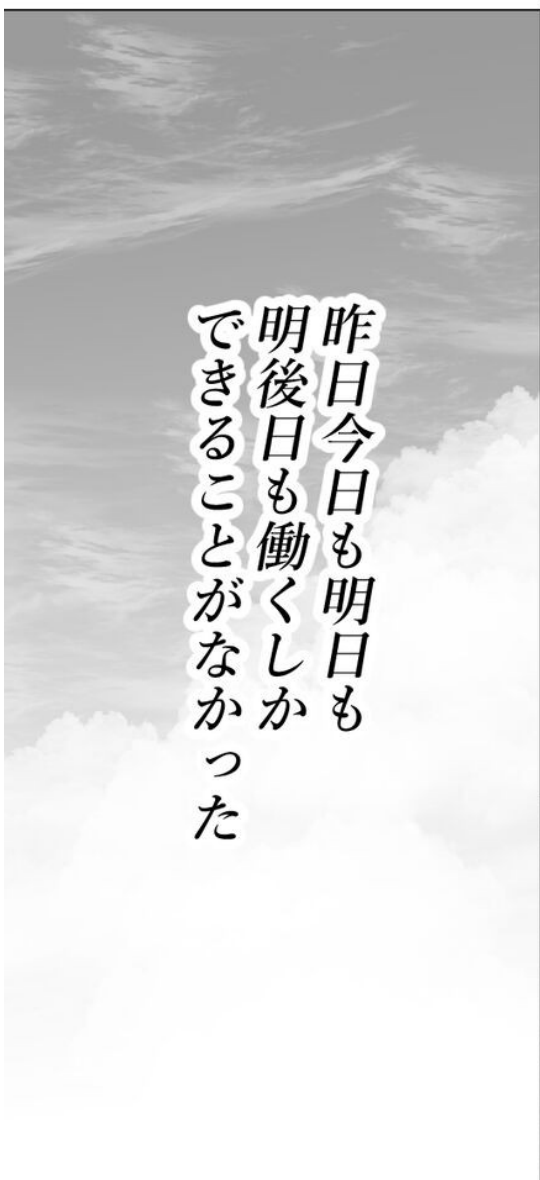
恥ずかしくても



色々な客がいて
俺たちは



全ての要求を
受け入れる
義務がある



昨日今日も明日も
明後日も働くしか
できることがなかった



体が売れなくなるまで

この生活は
続いていくけれど

終わりがいつ来るかは
わからないまま

第一話



花幻堂のほとんどの
陰間たちは
朝日が昇る頃に
接客を終える

ぴちちちちち

有難う御座いました〜！

しかし要望とあれば
昼間まで居残る客もあり
営業時間はあつてないような
ものであつた

また来てね
僕待つてるから

よしよし
可愛いなあお前も

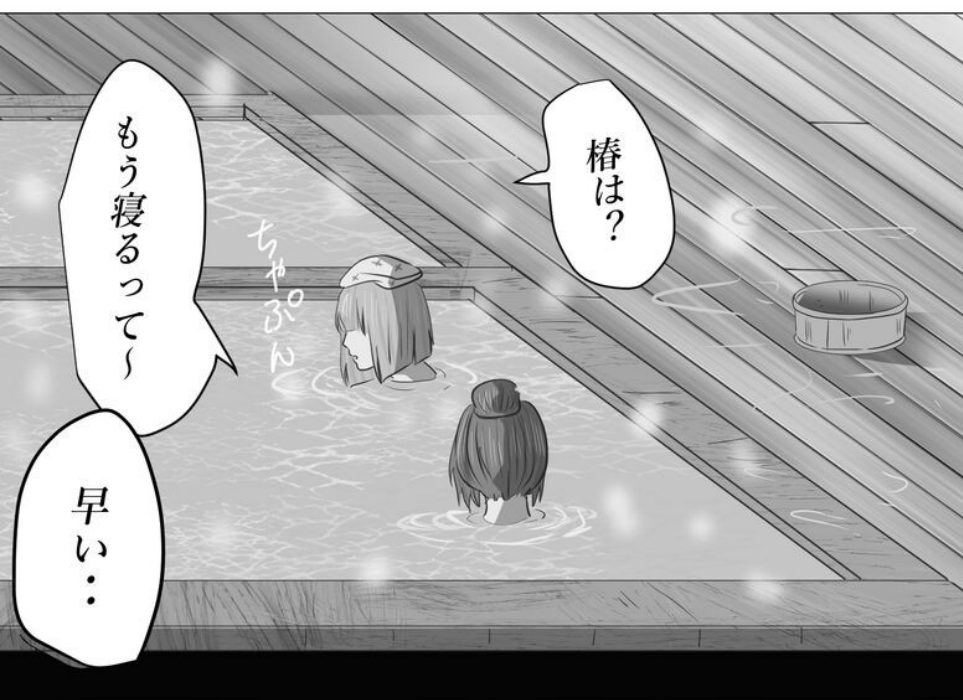
きつとまた来よう

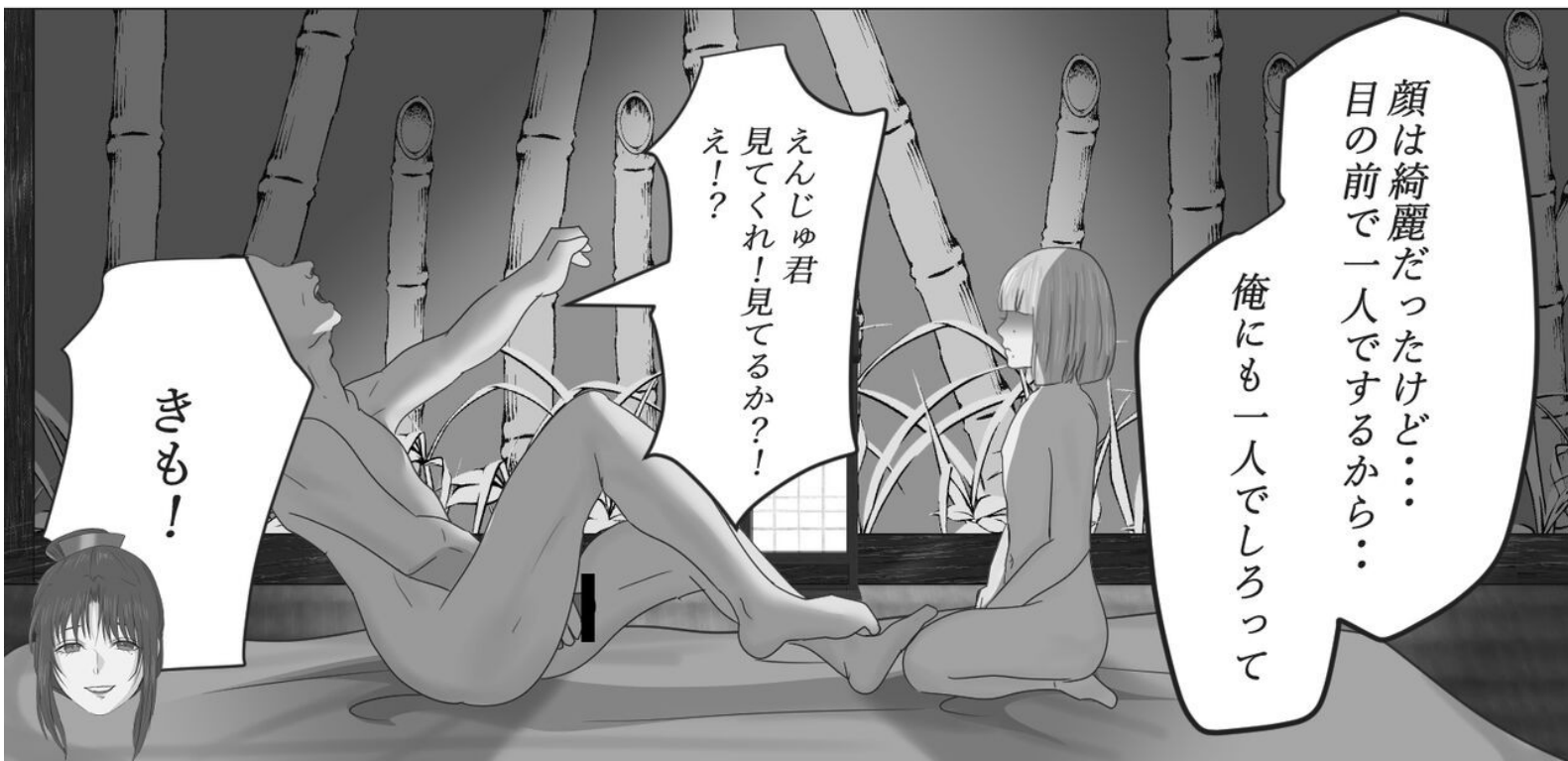
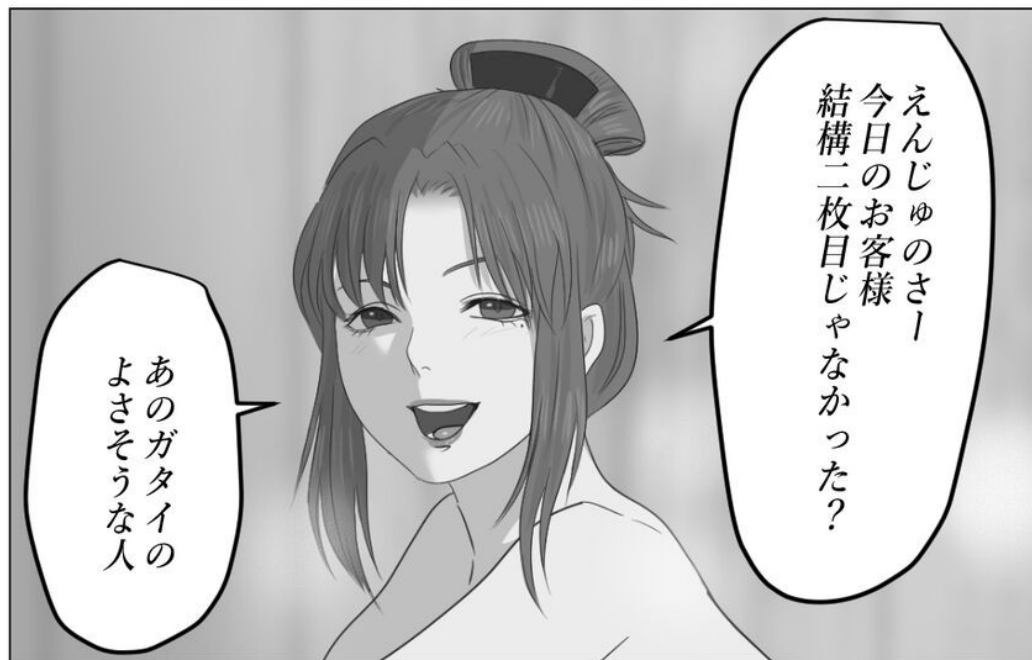
花幻堂

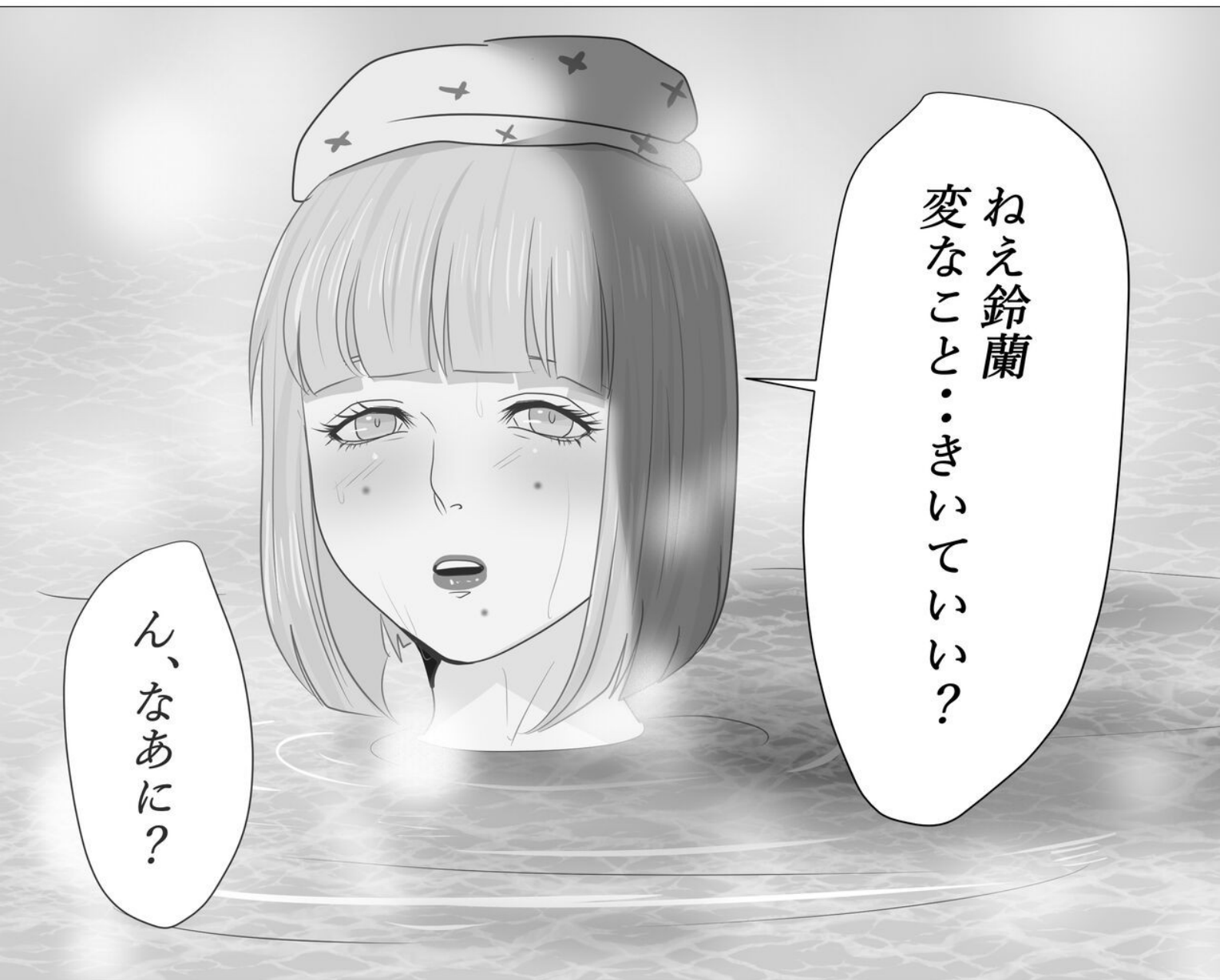
ふんふん

ふんふん









ねえ鈴蘭
変なこと…きいていい？

ん、なあに？

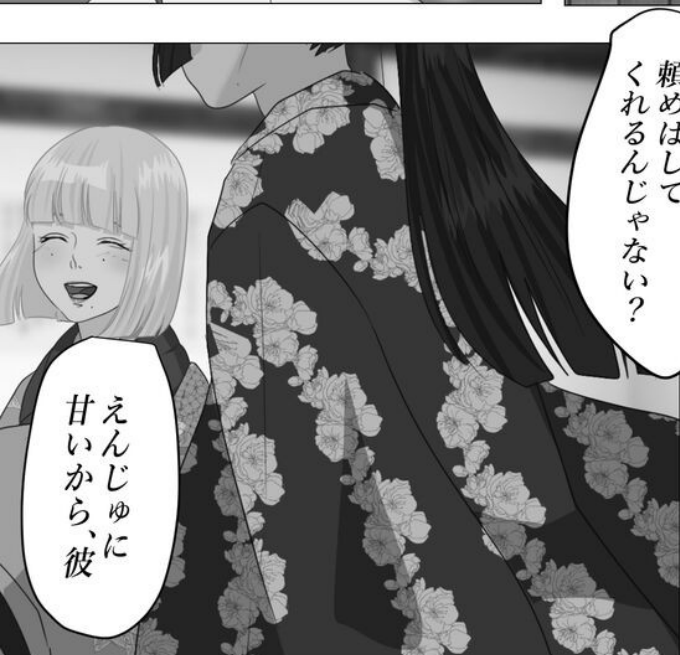


その…



僕の性癖とか…？

ううん、ちよつと
違う





どうやって…？

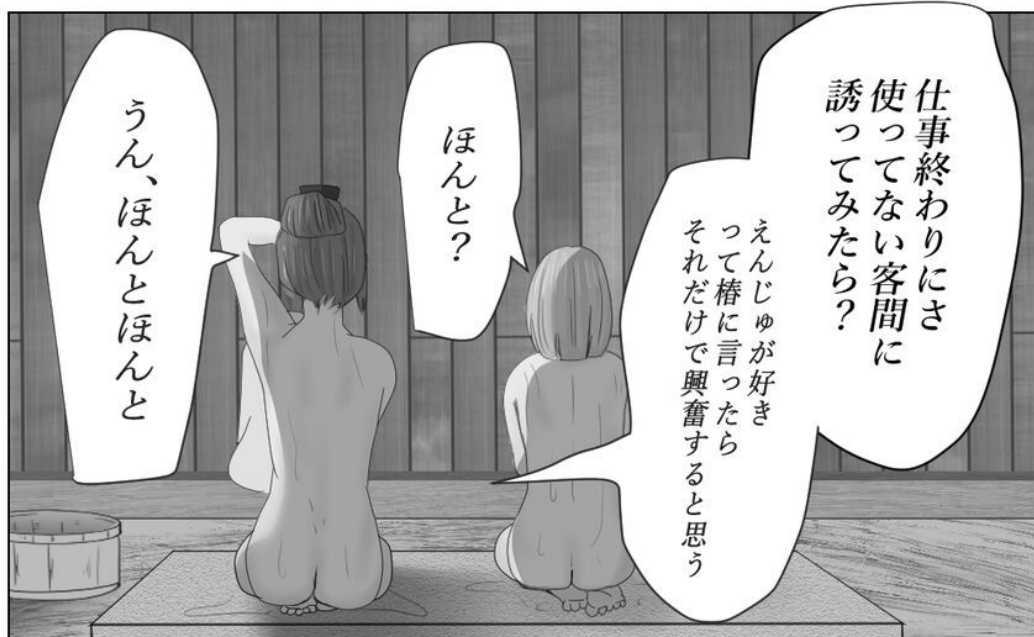


えんじゅから
誘ったらどう？

え…



いきなりそんな事
言ったら
嫌われないかな？



仕事終わりにさ
使ったない客間に
誘ってみたなら？

えんじゅが好き
って椿に言ったら
それだけで興奮すると思う

ほんと？

うん、ほんとほんと



どう見ても
両想いでしょ

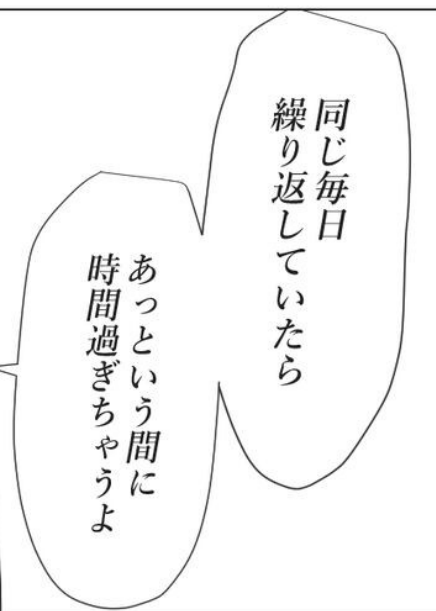
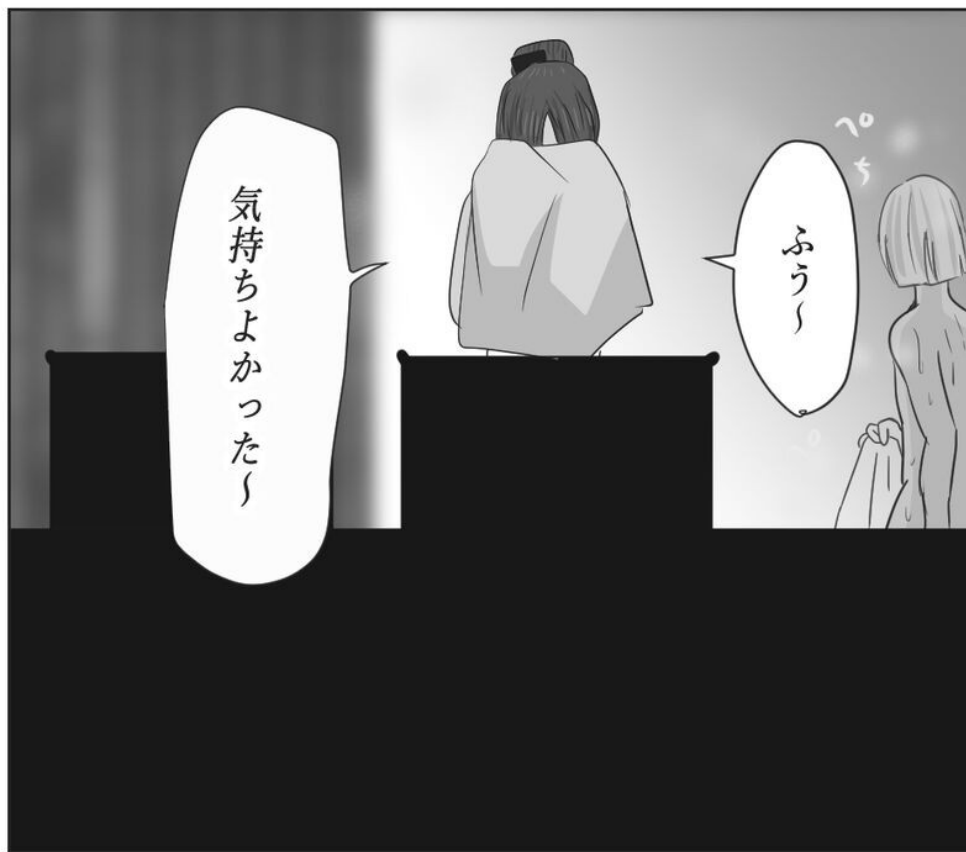
ん？

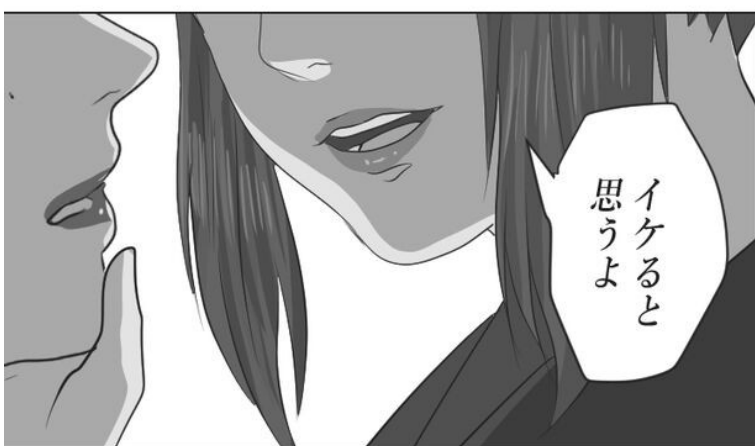
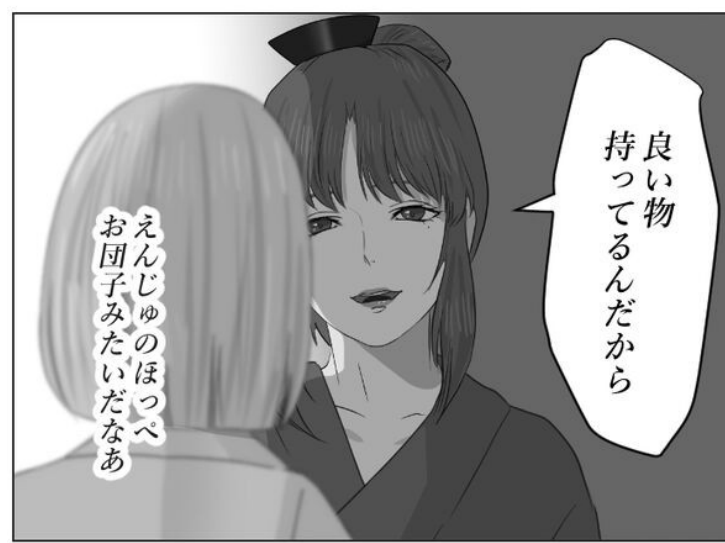
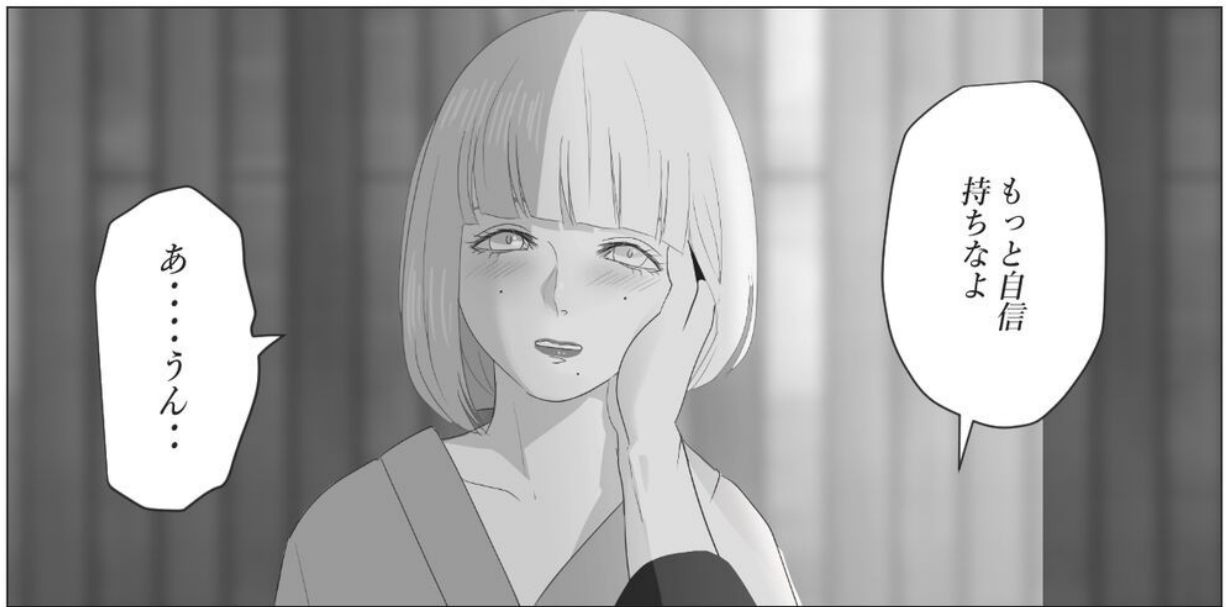


嫌われないってば！

悩み方が女の子みたいだよ
えんじゅ

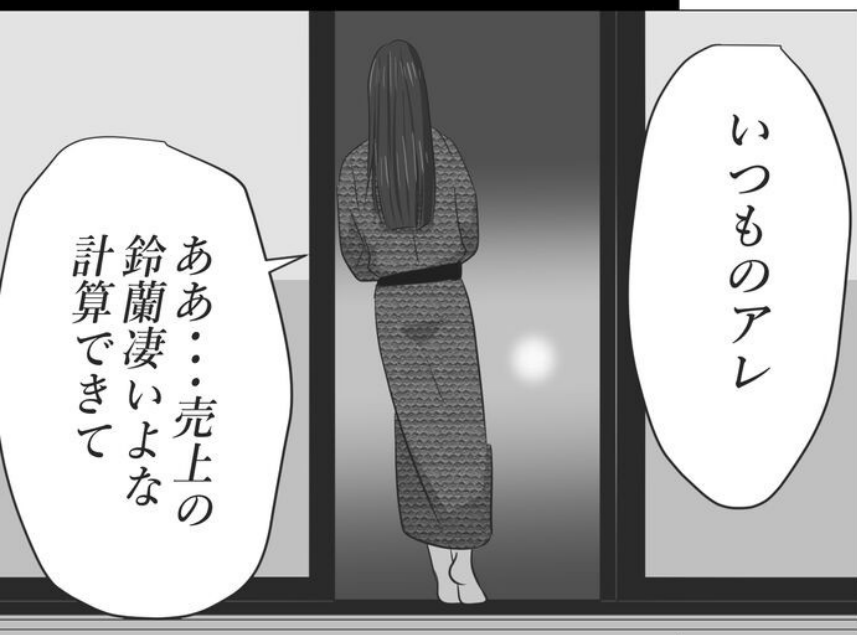
ばしゅん







夜
始業前



ああ...売上の
鈴蘭凄いやな
計算できて

いつものアレ



習えばだれでも
できるよ



お、椿

椿
陰間の一人
女性客しか付かない
えんじゅの好きな男



花田さんに
俺宛の手紙渡されたんだ

椿、
よかったな

何がですか？

詳しいことは数日後に
店外で会って話しましょう
ってさ

先に読んで悪いな

ほら。これ読んでみ
お前のこと指名して
身請けしたいって

花田さん
花幻堂の経営と
黒子もたまにやっている

いえ……それは
別に……

書いていた名前も
見覚えはないし
しかも夫婦で会いに
行きますって書いてあったんだ



その手紙の中に
俺を、身請けする
財力があるって
小判が入っていて

花田さんは
俺はもう陰間では
いられないから
受けいれろってさ

本当に心あたり
ないのか？

はい、全く……

手紙には家にくるなら
もう男娼をする必要も
ないって書いてた

何で……俺なんだ……

体を売らない日々って……
どんな感じなんだろう

その提案を……前向きに
考えようかなって……

え：：それ
大丈夫なの？
顔も知らないのに
何で椿を：：？

よくわからないけど
何にしても
お金払われちゃったら
俺：行かないと
いけないから：

まあ……
それもそうか……

えんじゆには
言ったの？

言っていない

絶対泣いちゃうから…
えんじゅ
想像しただけで
俺も泣きそう

はあ……
そうですか：

その頃のえんじゅは
客からもらった飴を
食べていた

えんじゅが
泣きじゃくって
暴れるとしても

早めに教えて
あげたほうが
いいんじゃない？

ちゅぽ

遅かれ早かれ
伝えないと
いけないんだから

うん…

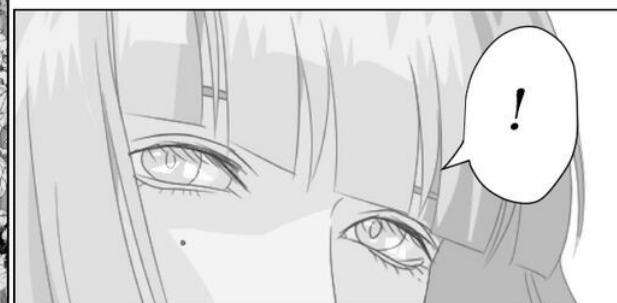
そうだよね…

ちゃんと…
言わないと…

第二話





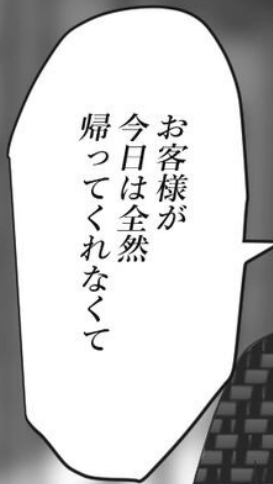




えんじゅは
風呂入って
来たの？

うん
さっき上がった

椿はこれから？



お客様が
今日は全然
帰ってくれなくて



そう

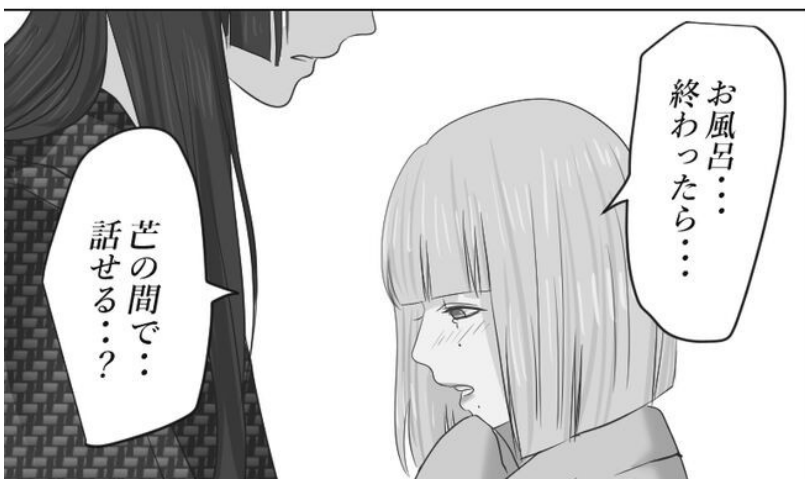
俺がもっと早く
終わってたら

一緒に入れたね



ねねえ…椿

ん？



お風呂…
終わったら…

芒の間で…
話せる…？



一緒にお風呂…!!
入りたかった!!

今なら…
椿のこと…
誘える…

あ…変なこと…
言ってごめん
真顔で見ないで

芒の間……？
何で……

勿論……いいけど
眠くないの？

ちよつと眠い……
けど……

椿と……
話したい

わ、わかった！
急いで
終わらせてくるね

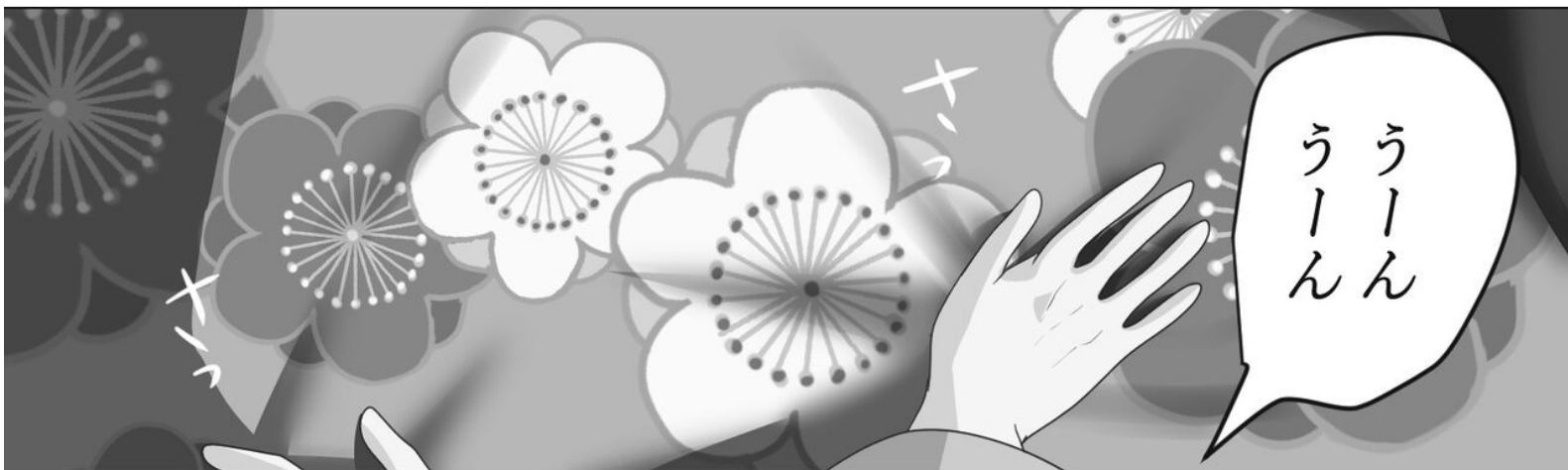
ゆっくりでいいよ
待ってるから

じゃあ後でね

よし！
絶対に言う！
えんじゅが
泣いても言う……！！

誘っちゃった……

緊張する……
椿に断られませんように……



でも……
可愛がられたい……！

おっさんに
穢され続けた体を
椿なら浄化してくれる……！

あ……

お風呂上がりの
ぽかぽかした体

夜通し続いた
肉弾戦による疲労

駄目だ……

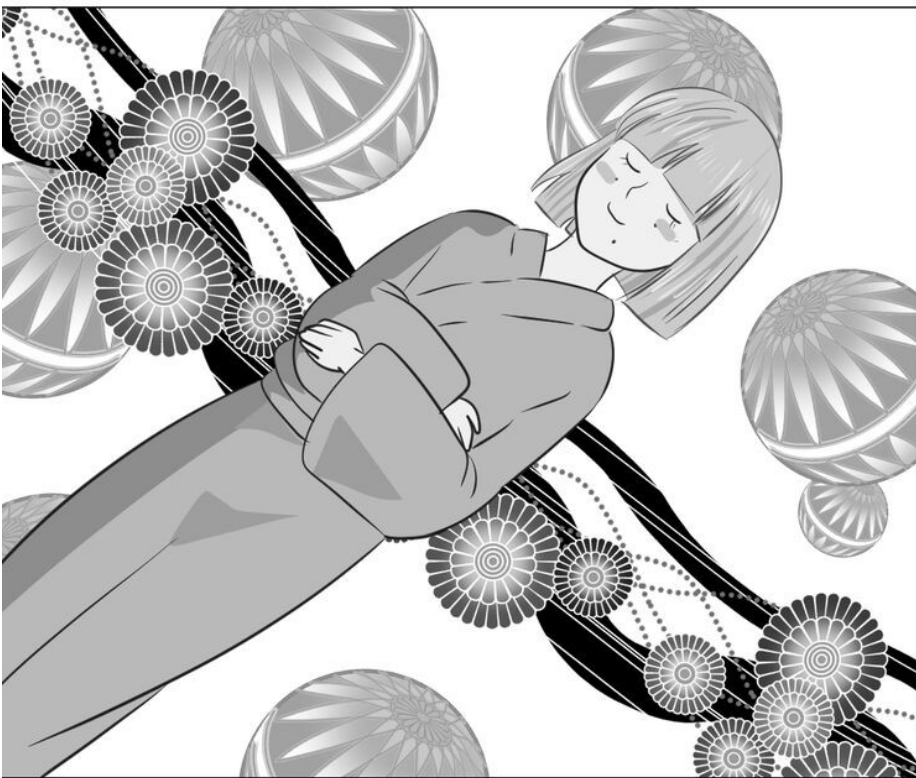
降り注ぐ
優しい朝日

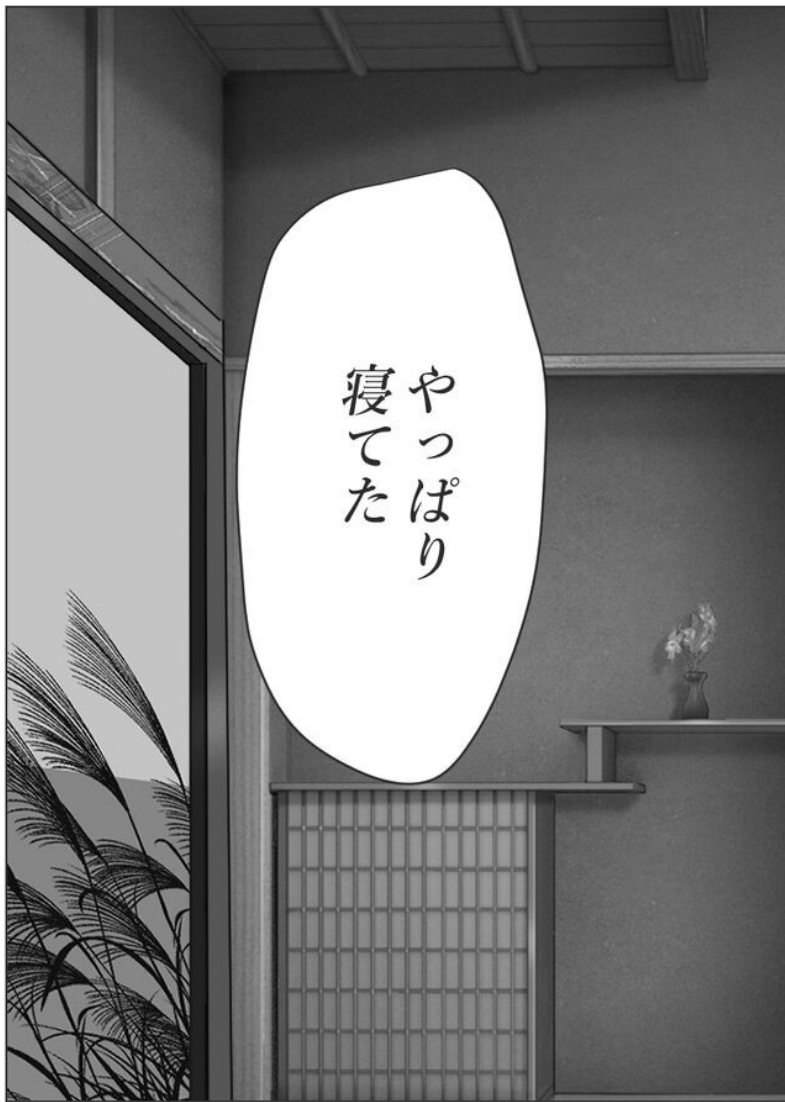
ねむ……

えんじゅの体は
睡眠態勢に
突入した

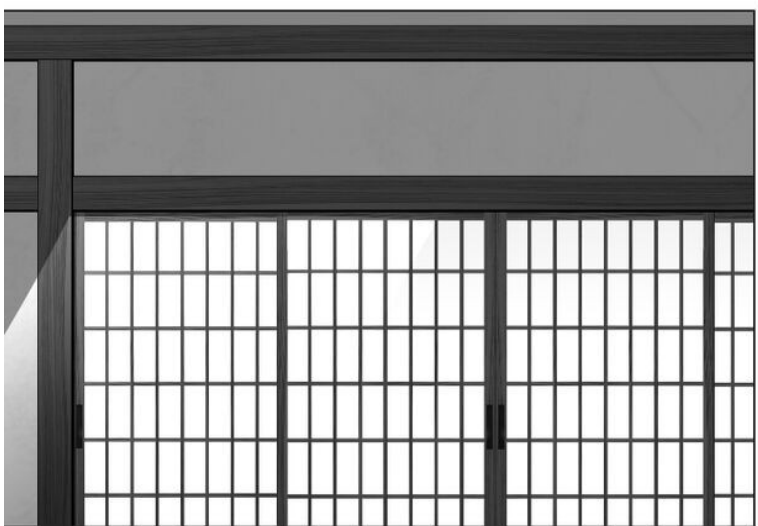
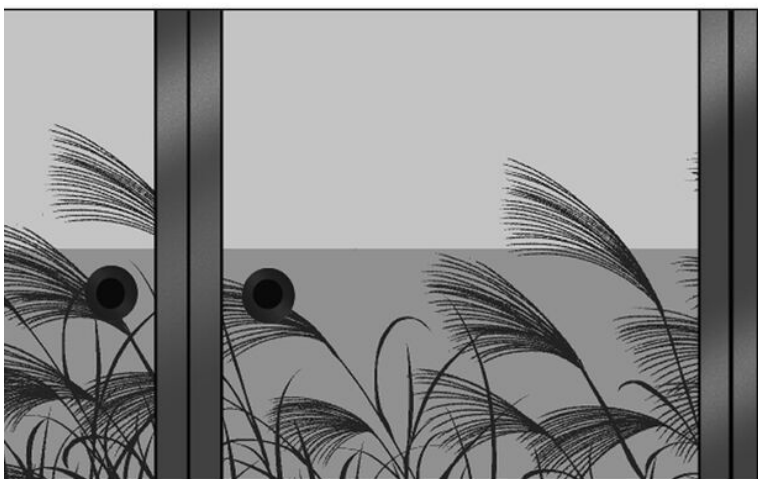
ちよつとだけ……
寝よ……

椿来たら
きつと起こしてくれる



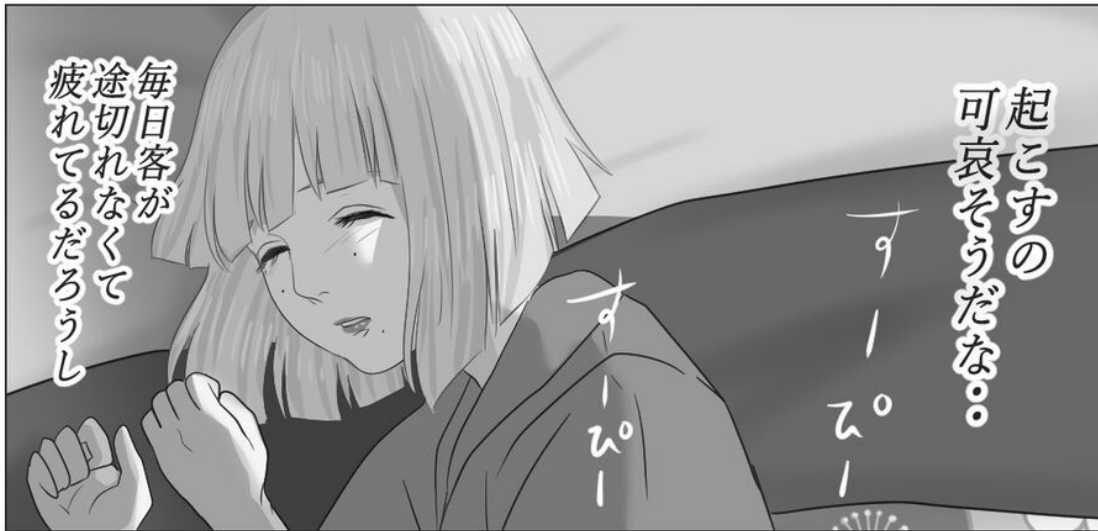


やっぱり
寝てた

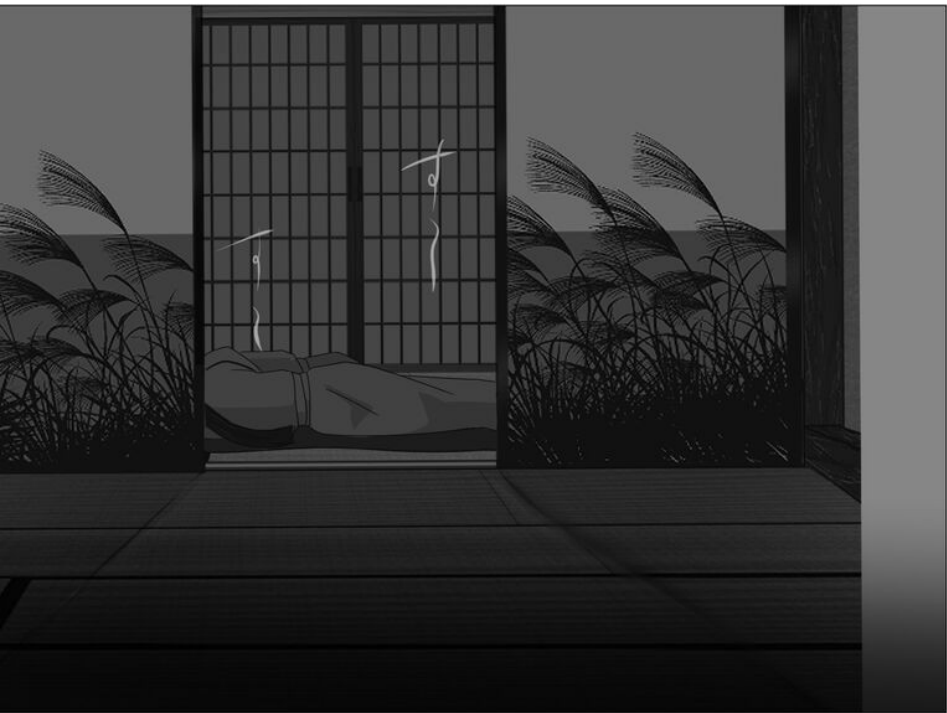
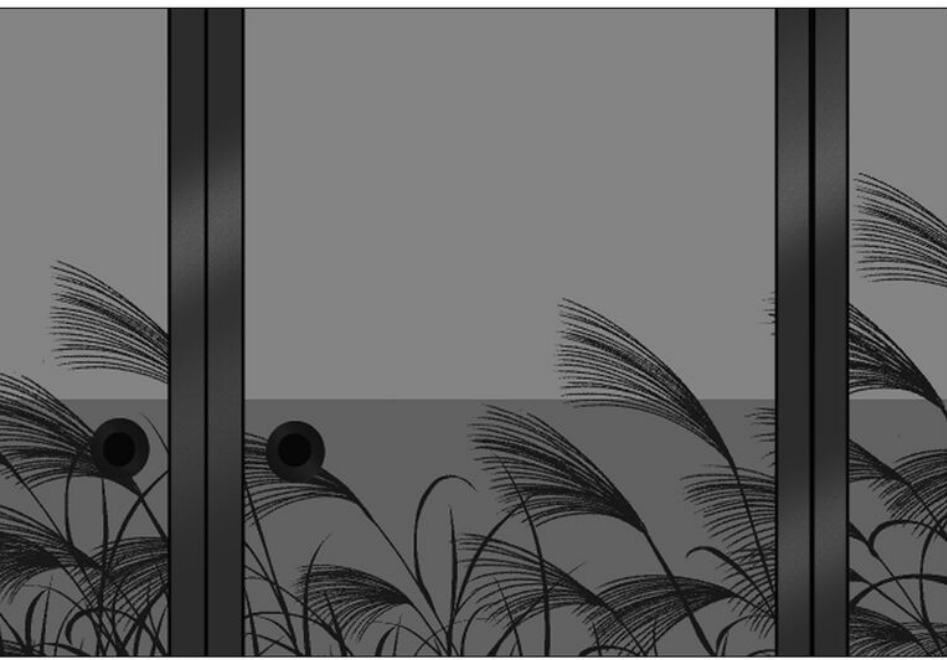


えんじゅは
長すぎる睡眠時間と
仕事の1時間前まで
眠りこけている

このことで
陰間達に
知れ渡っていた







しつかり寝ちやつた



お前らどこで何してた！
客待たせてるんだぞ！



ごめんなさい……！



えんじゅと椿は
普通に寝坊した

お腹すいた



客に食事を頼め！
早く行け！



椿……！
遅いですわよ！

菜乃花さん：
申し訳ございません：
準備に時間が：

菜乃花
椿の客で一番若い女性
父親の財産を使い込んで
椿に会いに来ている

もう！
これ以上遅かったら
あなたのお尻に金棒を
突っ込んでいる
所でしたわ

それは勘弁
してください……

うふふ
椿にはしません
冗談です

えんじゅと
添い寝しただけで

何も
話せなかった

えんじゅ君を
待ってる間
想像だけで
いっちゃいそうに
なってたよ

そうゆう焦らす
作戦だったのかナ？

そうです

酷いじゃないか！

いっ…
ごめんなさい…

椿来てくれたのに

何もできなかった

えんじゅ君！

えんじゅ君！

第三話





この日

そっかあ

椿はえんじゅに
身請けの話を
打ち明けることができた

優しい人たちの
所だといいね

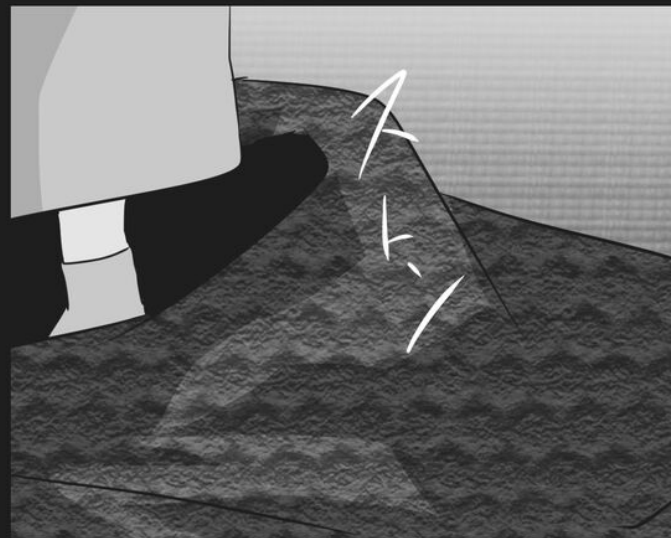
えんじゅの反応は
思っていたような
ものではなく

少し寂しいような
気もしたけれど
受け入れてもらえて
安心した

うん…

えんじゅ
寒いから
中に入ろう？

そうだね



俺の幸せを願うと
自分に
言い聞かせるように

えんじゅは何度も
同じような言葉を
発しながら

長い時間
震えていた



椿：..
俺ね椿のこと
好きだったんだ

そんなの知ってるよ
ずっと前から：

そうなの...？

うん：..
えんじゅ
わかりやすいもん

わかりやすすぎて
可愛くて仕方ないんだ

子供みたいで...？

ううん

違う



好きな人として
愛おしいって
思っているよ

離れるのは
寂しいけど
終わりじゃないから

えんじゅに宛てて
手紙も書くね

……絶対
書いてね……

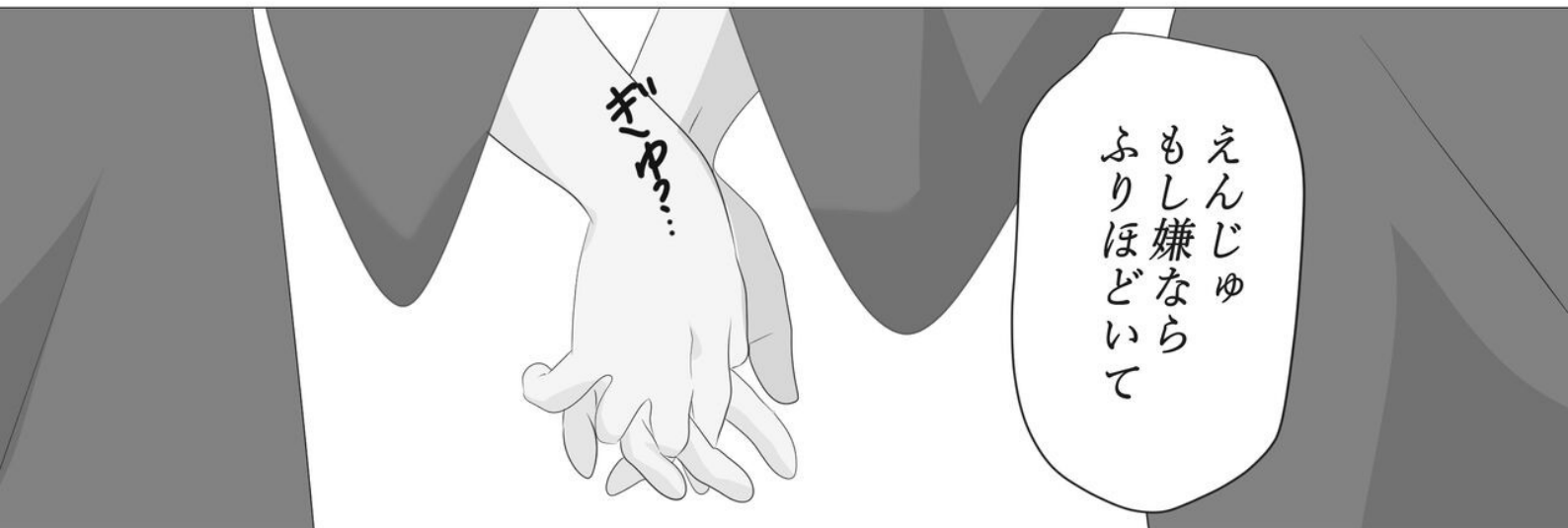
うん、約束



自分の力で稼いで
生きていけるよう
勉強してくる

少し時間がかかるかも
しれないけれど

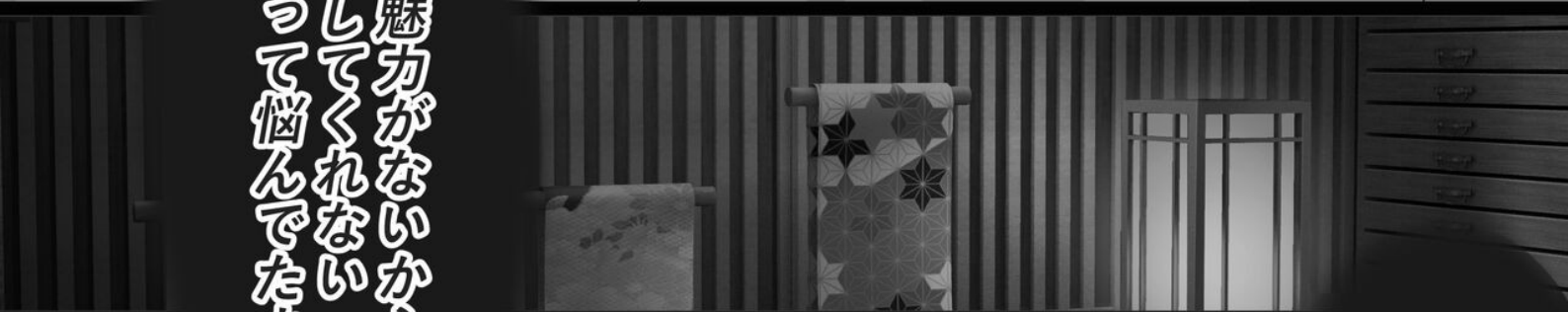
必ずえんじゅを
迎えに行くよ





ねえ椿 えんじゅがさう
好きな人に抱かれないって

自分に魅力がないから
手を出してくれない
のになって悩んでたよ

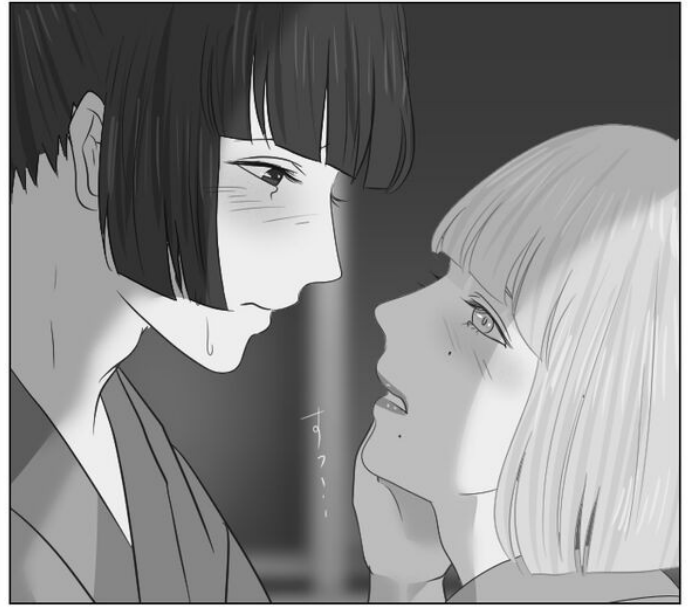
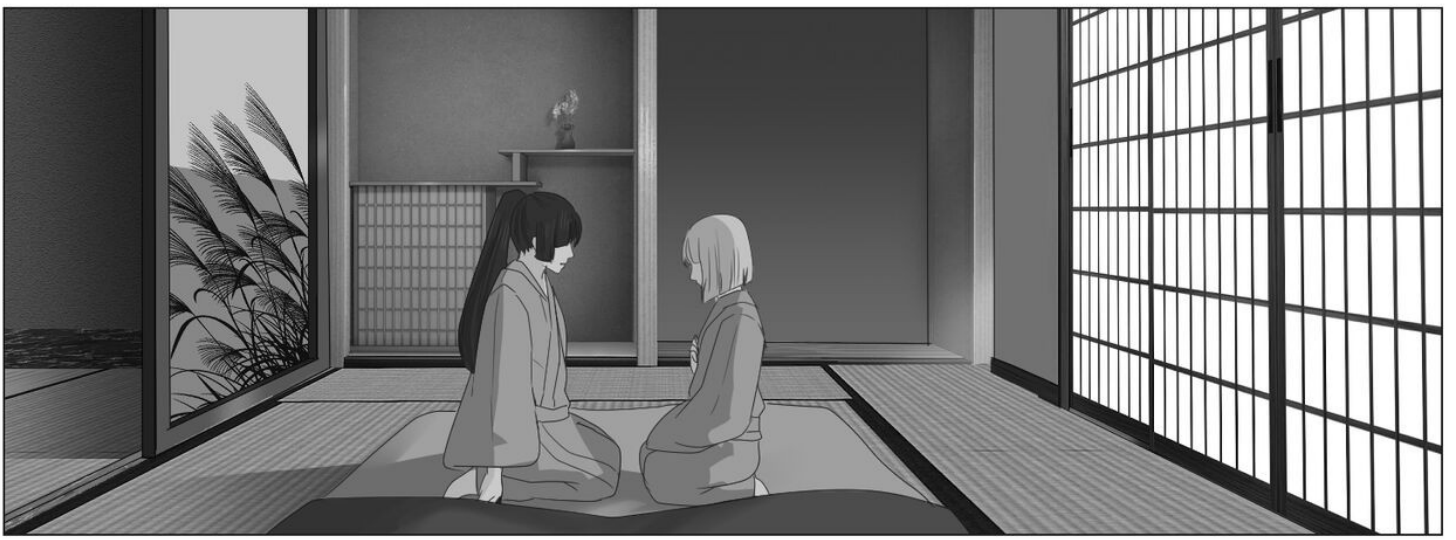


誰だるうな
小さい頃から
一緒に髪が長くて



えんじゅが
好きになりそうな人

全然わからんな





そうかな...



あ...はい

椿も脱いで



ドキ

ドキ



ずっと思ってたけど
えんじゅの体
凄い綺麗だよ

お客がお金払って
会いに来るのも
うなずけるくらい



椿……
：いつもしている
ことなのに……

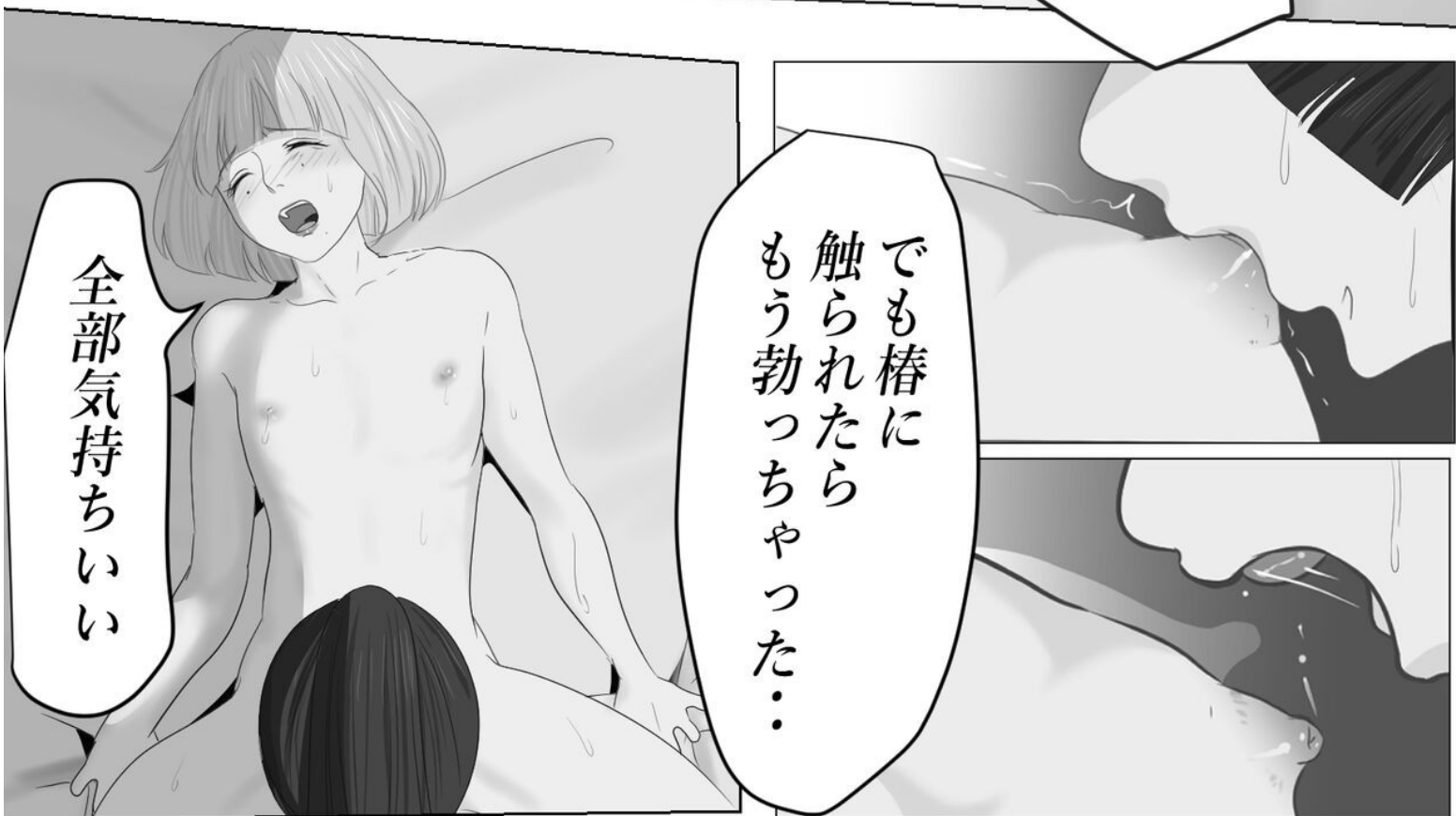
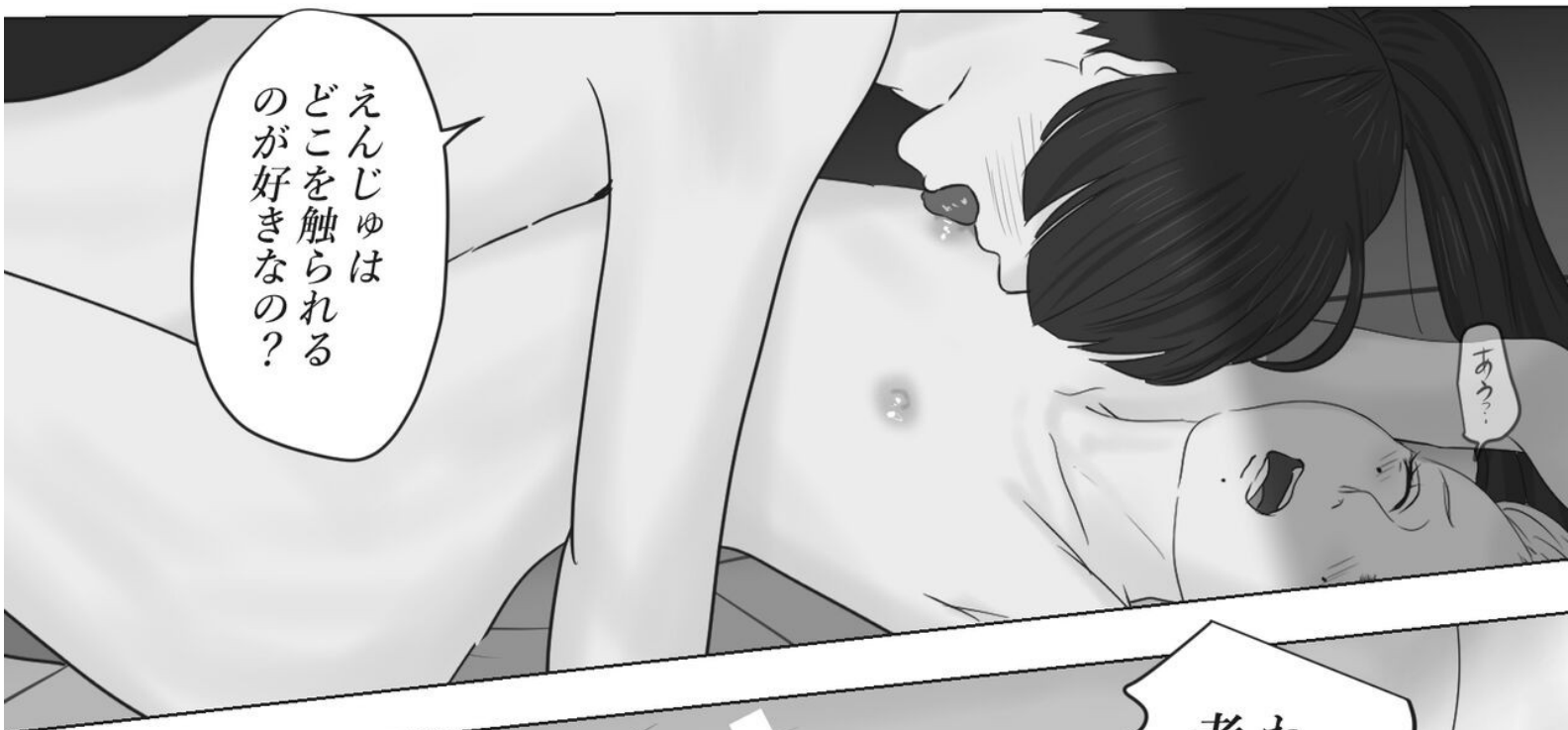
緊張しちゃう……



じゃあえんじゅは
寝転がってて

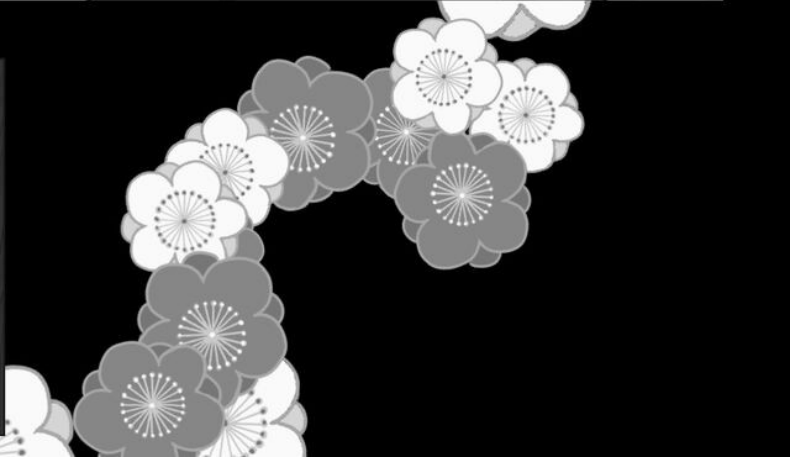
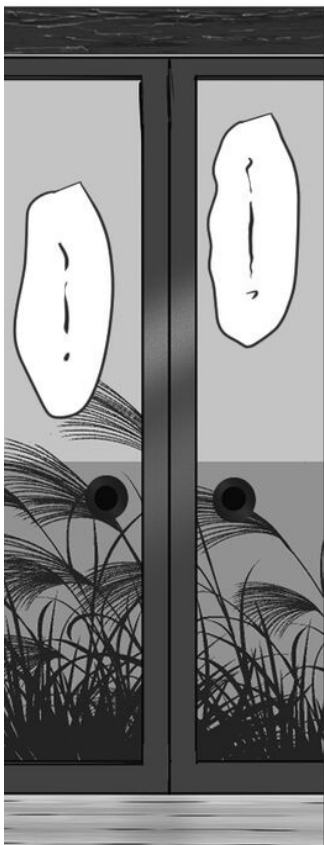
うん……

嫌なところ
あったら
直ぐ言ってね





してほ
しかったら
ちゃんと言
うんだよ





ん…俺の上
乗って…



椿の…
俺も舐めたいよお

え？
舐めてくれるの…？



椿のおつきいね



うう…えんじゅ…
そんな吸わないで…
すぐアレしちゃうから…

何度も何度
お互いの名前を
呼び合う

ぱち

感じたことのない
幸福感と寂しさ

ぱち

椿とえんじゅの
気持ちはこの日を
堺に更に大きくなっていった

えんじゅ……!

椿……!

はっ

椿……!

はっ

行かないで……

えんじゅ……
イキそう……

まだ駄目……
もっとしたい





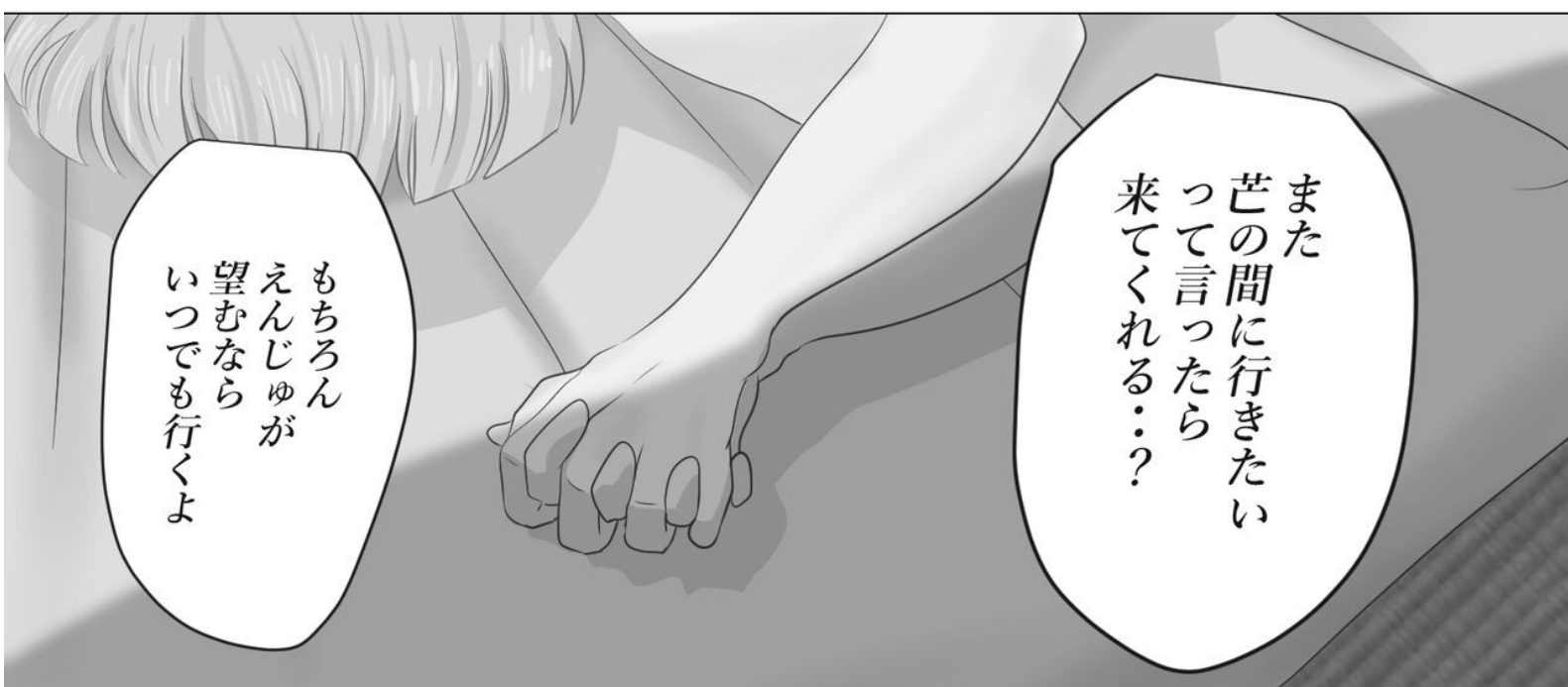
ん?どうした

そうだね...
あの...あのさ



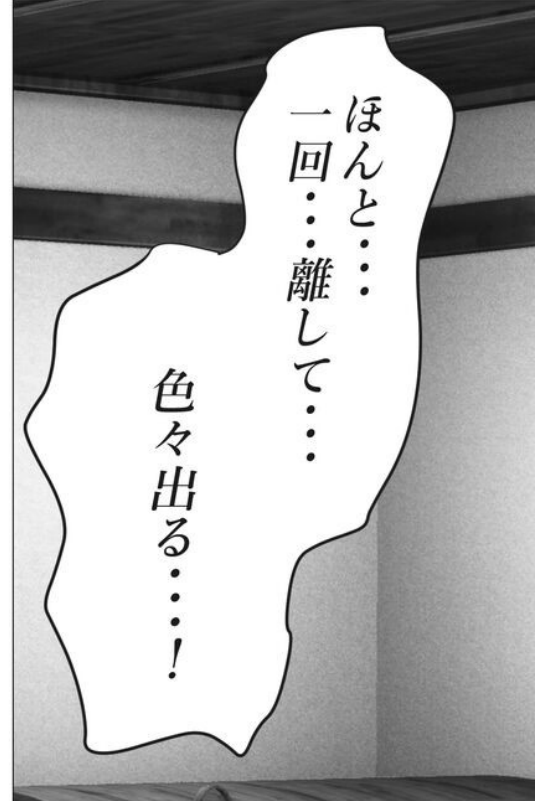
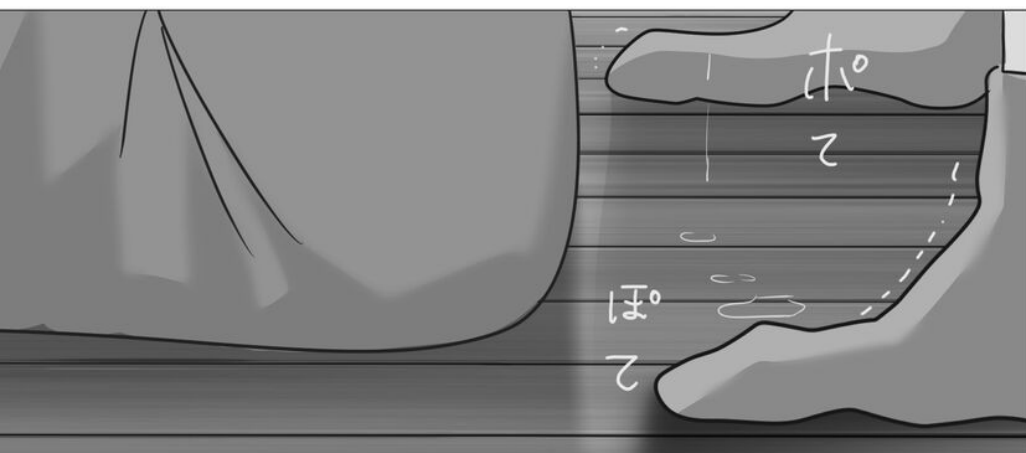
夜になっちゃう...

はぁ...はぁ...
もう...やめて...休まないと...



また
芒の間に行きたい
って言ったら
来てくれる...?

もちろん
えんじゅが
望むなら
いつでも行くよ



椿はというと
身請け先との
顔合わせを終え

ごめんなさい

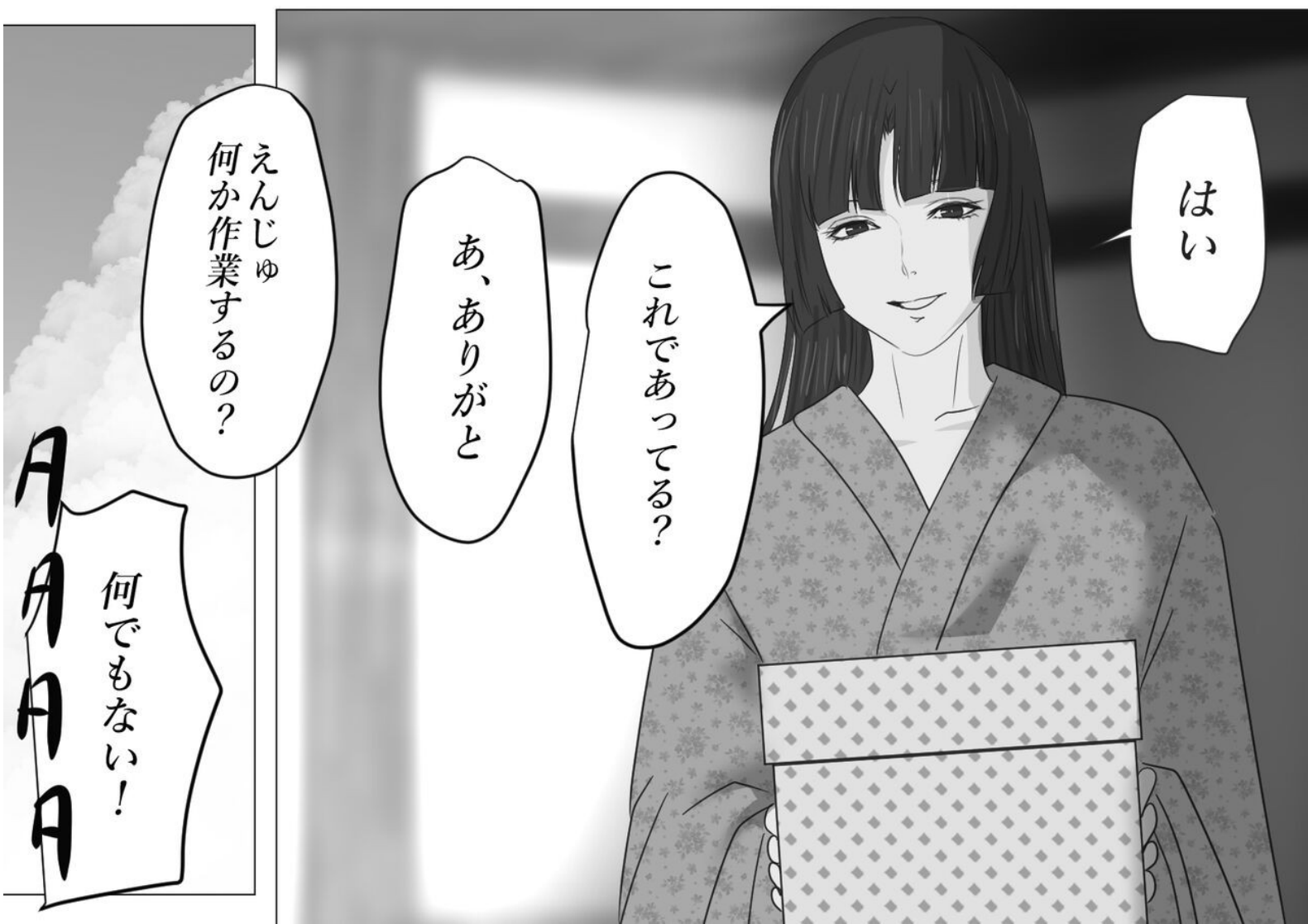
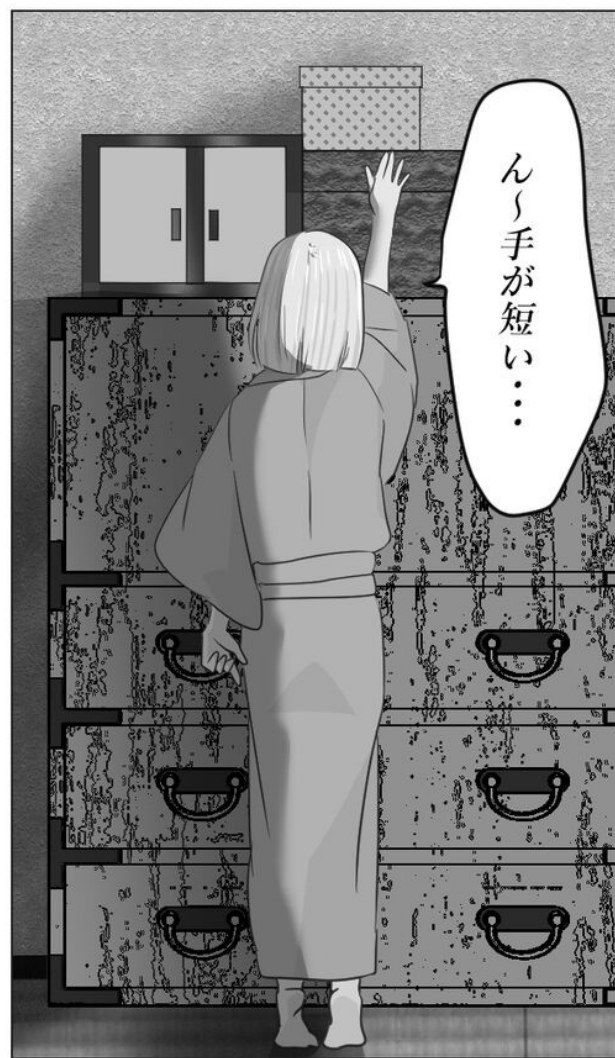
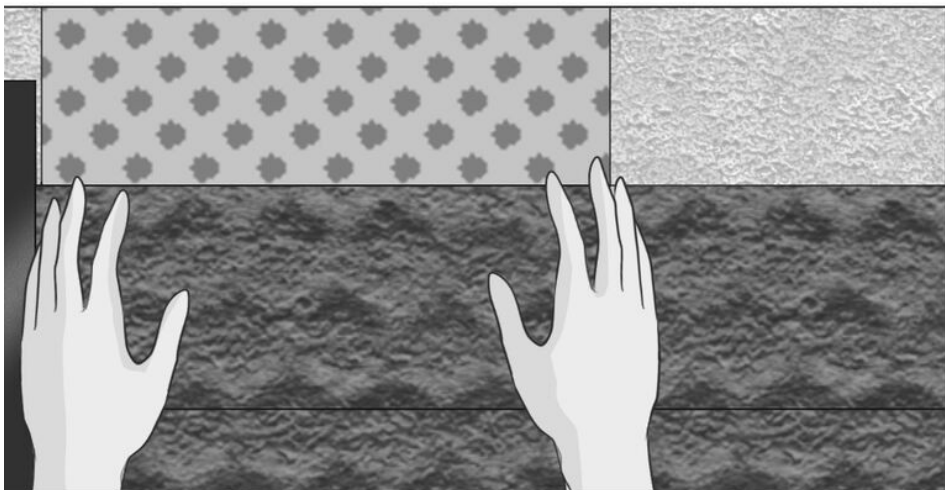
次の春が来たら
花幻堂を卒業
することになった

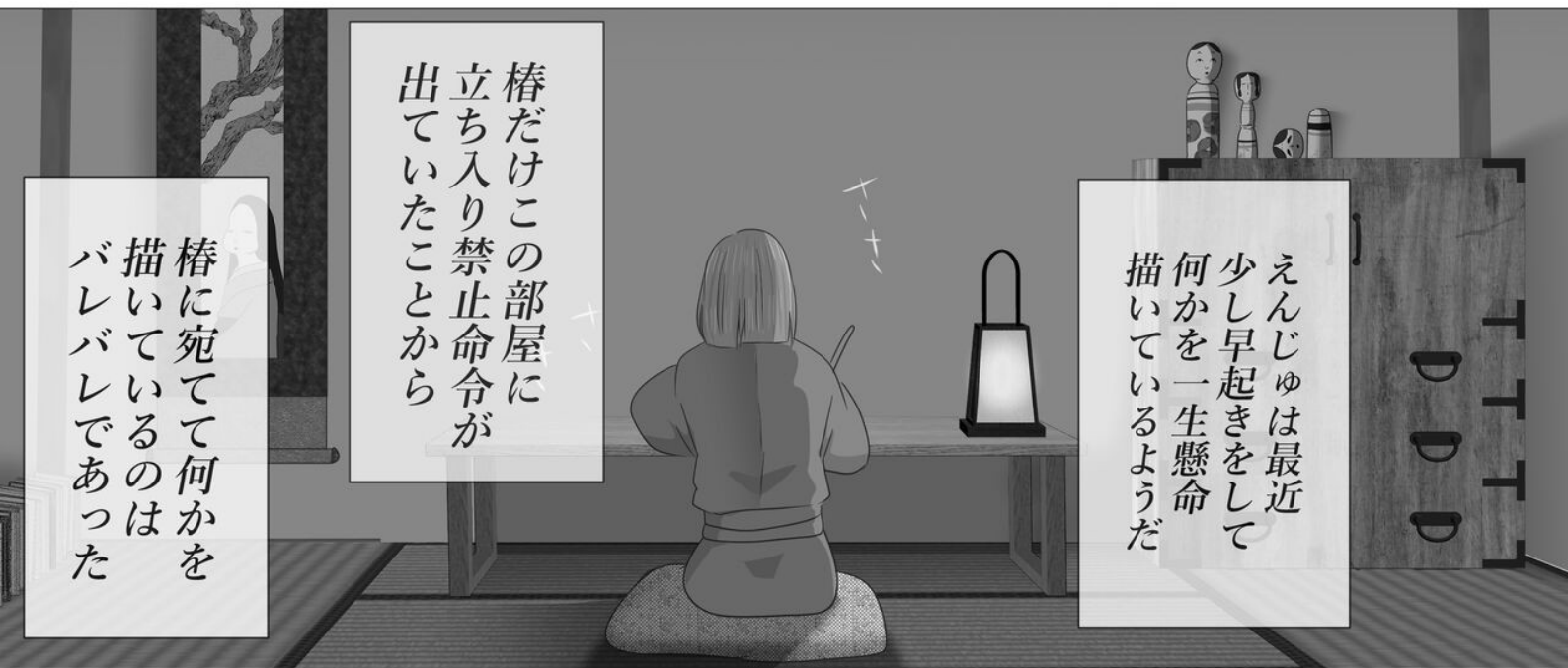
だがその家が
どのような場所
でどういった経緯で
椿を引き取ること
になったのかは

椿の口から
話されることは
なかった

しかし椿は

とても嬉しそう
だったから
えんじゅたちは
それ以上何も
聞かないでいた

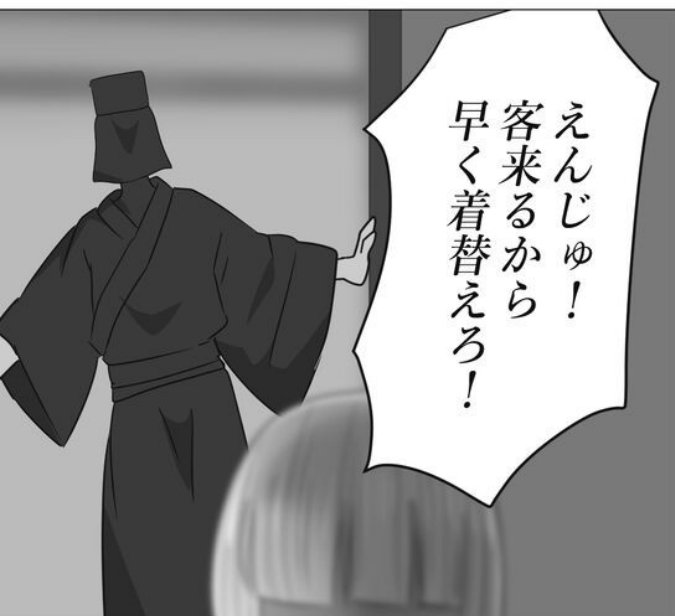




椿だけこの部屋に
立ち入り禁止命令が
出ていたことから

椿に宛てて何かを
描いているのは
バレバレであった

えんじゅは最近
少し早起きをして
何かを一生懸命
描いているようだ



えんじゅ！
客来るから
早く着替えろ！



あんまり……
似てない……



えんじゅ君
鼻の下赤いよ
花粉症？

いえ、こすりすぎました



うわ！鼻の下

もうそんな時間……



第四話

えんじゅ……
一応綺麗にしてきた
んだけど

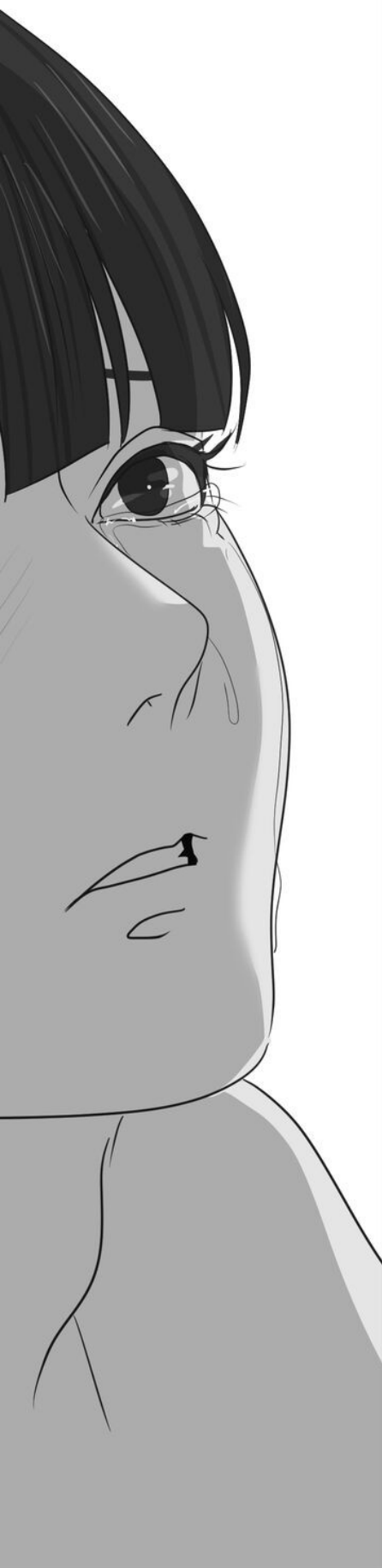
こっち側久しぶりだから……
きつかったらゴメンね

大丈夫
俺の……小さいから



何回も何回も
お互いの体を
弄り合った

それでも心の底から
幸せを感じられなかったのは



別れの日が
近づいていることを

思い出してしまうから



ううっ…また春のこと
考えたら萎えちゃった…

ごめん

えんじゅ…謝らないで…
無理しなくていいよ

やだ



がばの

椿・出そう

いいよ全部



えんじゅの精子
かけt…

ザッ

げ、最悪
ごめん部屋
間違えた(早口)



気付けば雪が
降り始めていた





寒い
寒い

はあ
誰か温かいお蕎麦
買ってきて

自分で行けよ



いいなあ……
大金持ちの家の
養子か……

花幻堂陰間
藍

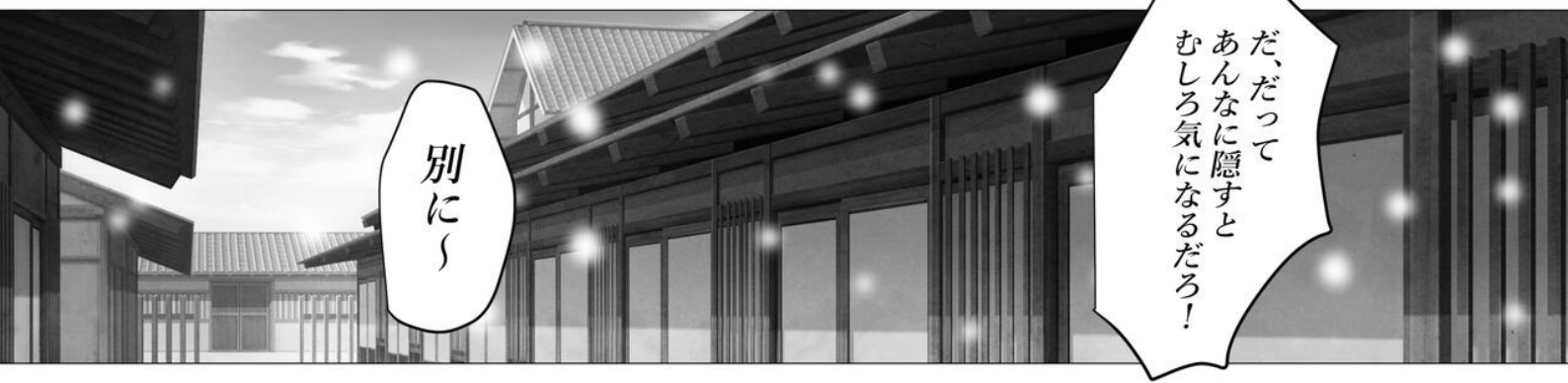


鈴蘭、
椿の身請け先
何者だと思う？

お前ら仲いいだろ？
何か聞いてないの？

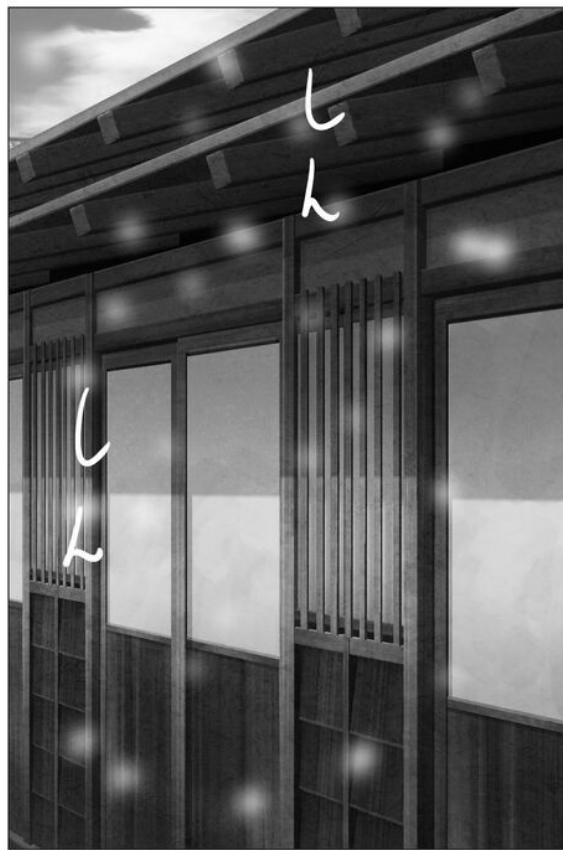
聞いてない
本人が言いたくないなら
それでいいじゃん

藍は井戸端会議してる
噂好きのばあなの？



別に

だ、だって
あんなに隠すと
むしろ気になるだろ！



ううん
今来たばかりだよ
大丈夫

またぐるぐる巻きだね

ふふ、通行人に顔をあまり
見られたくなくて
すみません



椿さん
待たせてごめんなさい



俺の前では
しなくてもいいよ
苦しいでしょ

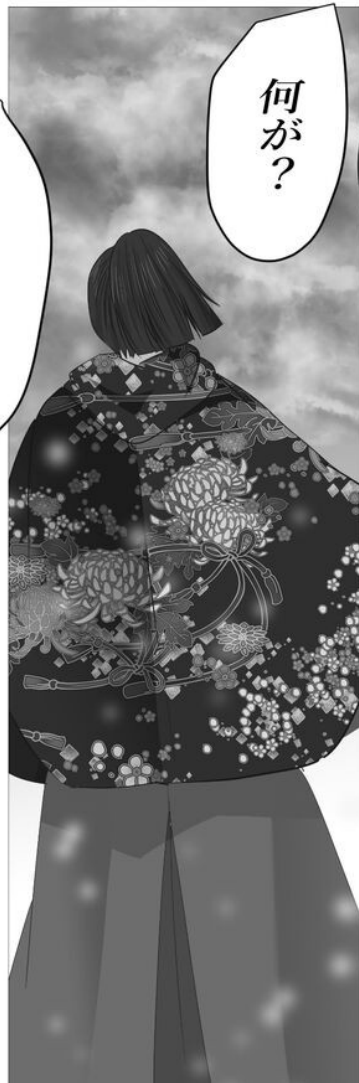


うん
じゃあちよつと
深呼吸するかな



僕の顔の傷

思うわけないよ
そんな事聞かないで

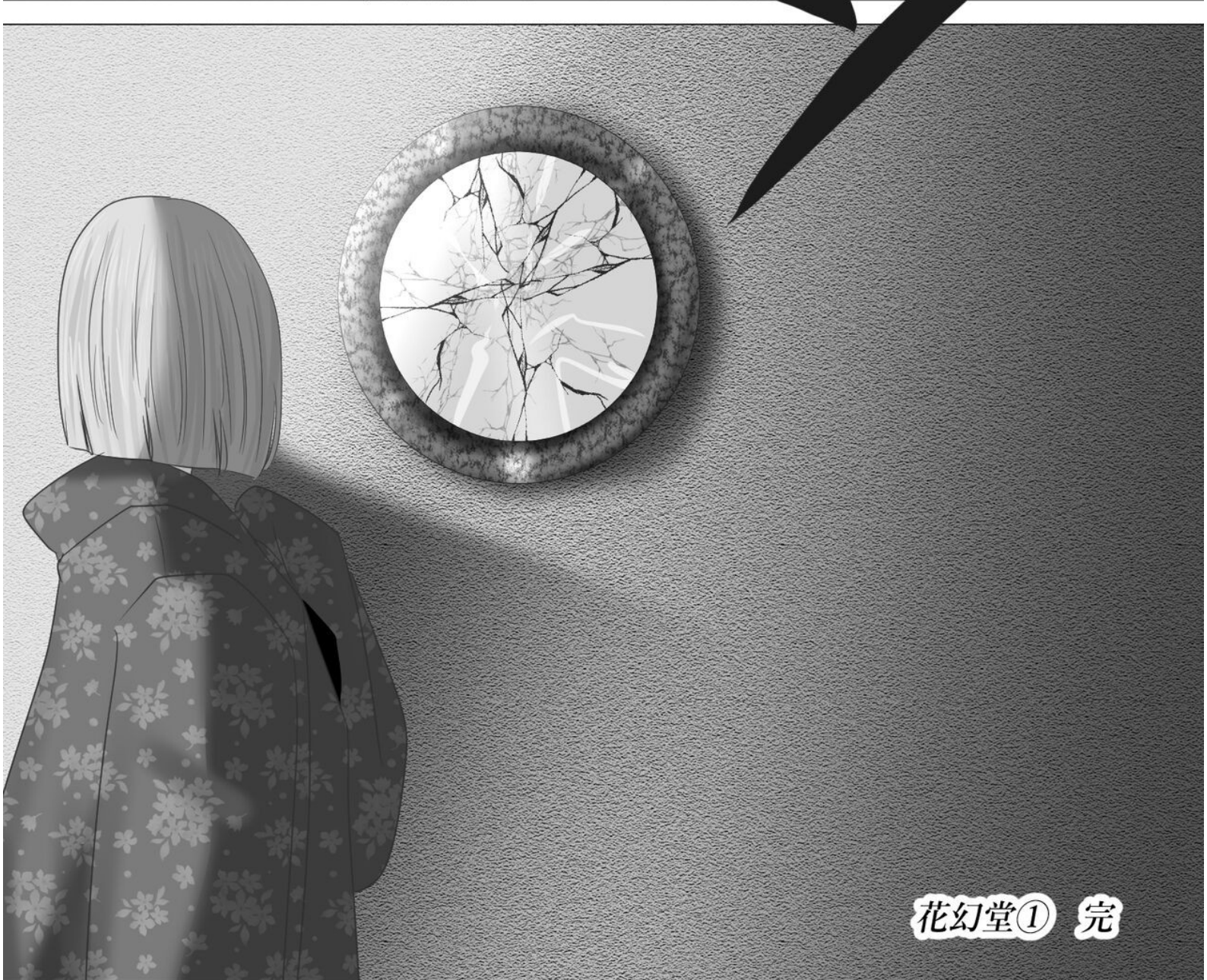
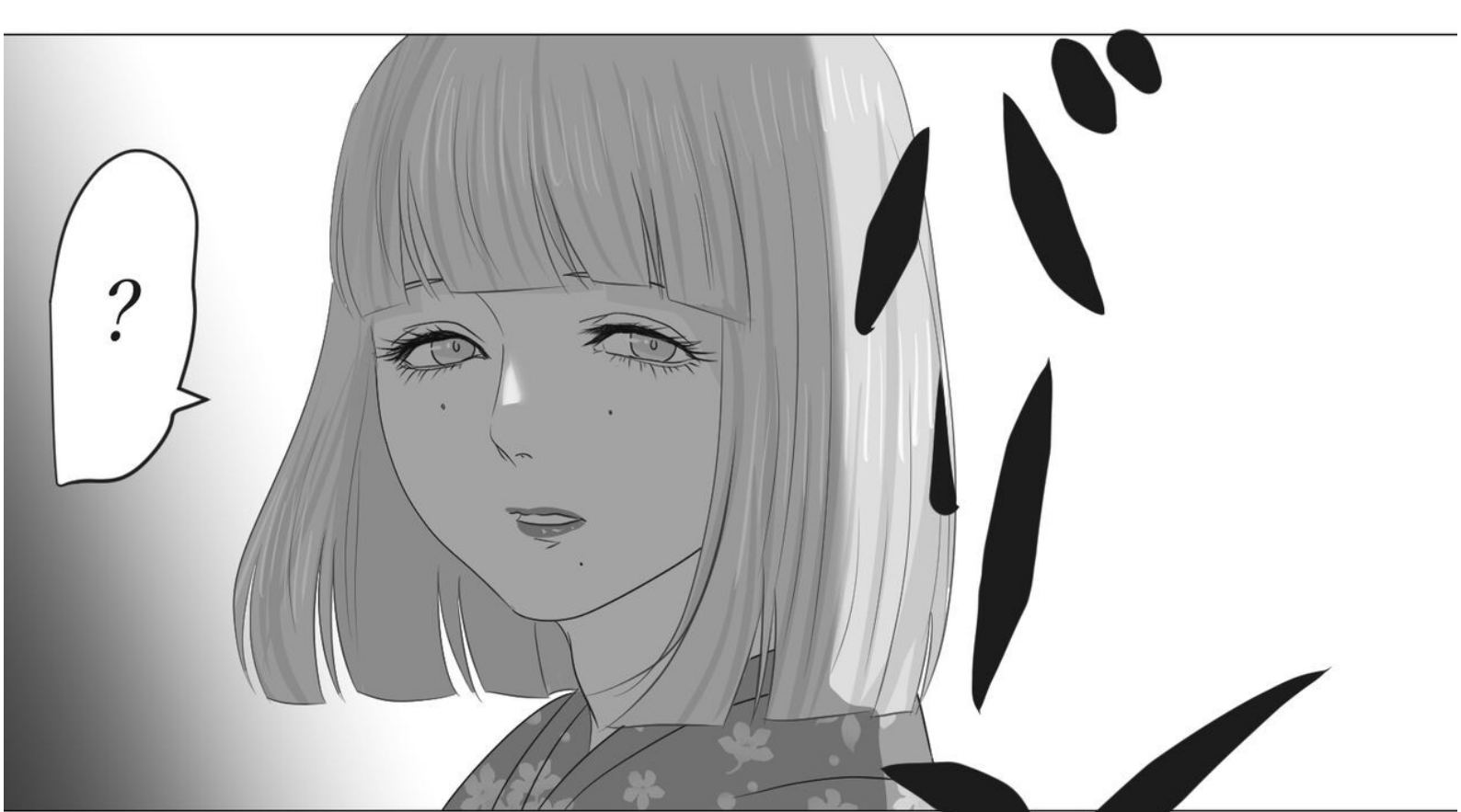


何が？

気持ち悪いって……
思わない？







この度は、「花幻堂」をご購入頂き、
ありがとうございます！

この作品は元々カラーとして全年齢向けとして
公開していたのですが、自分の欲望に従い
成人向けとして再出版することになりました！

ストーリー物×エロ 自分の描きたい漫画を
思う存分描いていこうと思います

一体何冊になるのか、自分でも予想できない
のですが、ちゃんと終わらせたいなあと思っています。
思っています。

描き直しが多く、今回途中で嫌になりにけり、
ゲームの世界に逃げ、鬼を殺したり、農業したり
一日ら回位昼寝したりもしましたが、
何とか完成させられてよかったです。
最後まで読んで下さり、ありがとう
ございました！

鶴丸リリ

twitter → @Chx5F